

(様式)

令和 6 年度 剣道部の指導方針等について

令和6年10月10日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	小池 和樹			
副顧問	杉浦 裕二			
副顧問				

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
3段取得を目指して日々の練習に取り組む。

3 指導方針

- (1) 剣道の正しい伝承と発展のために、県の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。
- (2) 相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。
- (3) とともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
今年度は活用なし。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握するとともに、熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	
	7	昇段審査
	8	出稽古
2 学期	9	
	10	
	11	
	12	
3 学期	1	
	2	昇段審査
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映）

(様式)

令和 6 年度 卓球部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	黒田 亮平			
副顧問	丹藤 夢子			
副顧問	岡本 亜紀			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
自ら考える力を培い、自主的に部活運営を行う力を身に付けていく。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
大会に積極的に出場し、より多く勝てるように日々の練習に取り組む。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に 3 日間とし、放課後の短い時間であるが、選手同士で教え合いながら集中して取り組む。
- (2) 練習や試合等の計画
基本的に高体連が主催する試合に参加し、試合に合わせて練習内容を決定させる。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
大会会場や普段の生活のなかでも基本的な礼儀や言葉遣いができるような生徒を目指す。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
部活動内で生徒同士が問題解決を行う際に、暴力で解決しないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
なし。
- (4) 事故防止・安全配慮
けがや熱中症防止のために、生徒自身の体調・体力を把握し、運動による事故がないように部活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介
	5	
	6	関東大会東京都予選
	7	多摩地区大会
	8	
2 学期	9	練習試合
	10	新人戦
	11	新人戦 調布市民大会
	12	
3 学期	1	
	2	
	3	練習試合

(様式)

令和 6 年度 男子硬式テニス部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	内田 智隆	嶋田 康男	公益財団法人日本スポーツ協会 公認コーチ 3	年 6 回
副顧問	波切 旬二	長谷川 良矢	テニス歴 5 年	月 2 回
副顧問	小林 翠			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
本校の教育目標「学び、鍛え、輝け」を元に、自ら考え、目標を設定し、それに向かって取り組む姿勢個性や適性を伸ばし、自律した社会人を育成することを目指す。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
都立校大会ベスト 8、東京都高等学校テニス大会ベスト 16

3 指導方針

- (1) リーダーシップと社会的スキルの育成
生徒がリーダーとして周囲をまとめ、正しい言葉遣いや礼儀を守ることを重視する。部活動内外での人間関係を円滑にし、社会で必要なスキルを育む。
- (2) チームワークと責任感の醸成
協力し合い、互いに支え合いながら目標に向かうことで、協調性や責任感を高め、共に成長することを目指す。
- (3) 自らの力で考え、主体的に行動する力
生徒が自分で考え、問題解決に取り組む姿勢を大切にする。部活動を通して、困難な状況でも自発的に行動できる力を養い、自己成長を促す。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
指導においては、体罰や暴言などの強制的な手段を一切使用せず、あくまで生徒の自主性や尊厳を重んじた方法で進める。コーチや顧問は、生徒と対話を重ねながら、理解を深め、共感的な指導を行うことを重視する。
- (2) 生徒間の暴力禁止
部活動内では、互いを尊重し合い、協力的な関係を築くことが重要視される。いかなる対立があっても、暴力に訴えることなく話し合いによって解決を図るよう指導する。
- (3) 外部指導員の活用
専門的な技術指導や最新の練習方法を提供するため、外部指導員を積極的に活用する。外部指導員は競技力の向上のみならず、メンタル面のサポートやコーチング技術を提供し、部活動全体のレベルアップに貢献する。

(4) 事故防止・安全配慮

部活動中の事故やケガを防ぐため、安全管理を徹底する。特に夏場は、熱中症にくれぐれも注意し、練習や試合前後のストレッチやウォーミングアップ、適切な休息の指導、使用する器具や設備の点検など、安全面への配慮を行う。また、緊急時の対応策も事前に周知し、事故が発生した際に迅速かつ適切な対処ができる体制を整える。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒部活動紹介
	5	東京都高等学校テニス選手権大会（個人戦）
	6	東京都高等学校テニス選手権大会（団体戦）
	7	都立対抗テニス大会(団体戦)
	8	夏季練習、部内線 他校との練習試合
2 学期	9	東京都高等学校新人テニス選手権大会（個人戦）
	10	
	11	東京都高等学校新人テニス選手権大会（個人戦）
	12	都立対抗テニス大会(個人戦)
3 学期	1	冬季休業中 練習及び練習試合
	2	
	3	春季休業中 練習及び練習試合

(様式)

令和 6 年度 女子硬式テニス部の指導方針等について

令和6年10月10日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	吉弘 雄飛			
副顧問	小林 真希			
副顧問	梅原 佐和子			

2 年間目標

- (1) 大会に出場する。
- (2) 1回戦でも多く勝ち残る。

3 指導方針

- (1) 目標を達成するための練習時間を日常的に確保する。
- (2) 生徒による自主的な運営体制を推進する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
アンガーマネジメントを確実に行う。
暴力によらない指導を行う。
- (2) 生徒間の暴力禁止
暴力に頼る解決を図ることがないよう、指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
特になし
- (4) 事故防止・安全配慮
こまめな水分補給を行い、熱中症対策を行う。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	
	5	東京都高等学校テニス選手権大会
	6	
	7	都立対抗テニス大会
	8	
2 学期	9	東京都高等学校新人テニス選手権大会
	10	
	11	
	12	
3 学期	1	
	2	
	3	

(様式)

令和 6 年度 ハンドボール部の指導方針等について

令和6年10月10日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	東福 悟	藤光 祐	6年以上経験	週1回
副顧問	高木 智子			
副顧問	瀧澤 葵			

2 年間目標

- (1) 集団活動の中で自己の価値を改めて発見する場として、試行錯誤を繰り返しながら日々の努力を重ね、あきらめることなく継続することで目標を達成する。
- (2) 各大会で勝てるチームを目指して日々の練習に取り組む。
- (3) リーダーシップの育成を図る

3 指導方針

- (1) 練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 月に1～2回程度、競技力を高めるため他校等との練習試合を行う。
- (3) 挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握するとともに、熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選
	5	総合体育大会東京都予選
	6	
	7	夏季合宿健康診断 神奈川県ハンドボール交流会
	8	夏季合宿（長野県千曲市 体育館 3泊4日） 公立高校大会
2 学期	9	地域ハンドボール大会
	10	新人大会東京都予選
	11	練習及び練習試合
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	練習及び練習試合
	2	練習及び練習試合
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

(様式)

令和 6 年度 女子バレーボール部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	三品佳子			
副顧問	大和田わかな			
副顧問	宇佐美俊哉			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
I 部大会・本戦出場を目指して日々の練習に取り組む。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に 5 日間とし、練習時間は、平日 2 時間、休日 4 時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に 2～3 回程度、競技力を高めるため練習試合を行う。
実戦での反省を活かし、自ら練習計画を立案できるようにする。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、学校の代表としての意識を持ち、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、思いやりの心や協調性及び責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、自己管理能力を高めていく。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
目的に応じて外部講師を招いて、活動を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握するとともに、熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容	
1 学期	4	生徒会部活動紹介 春季リーグ戦	
	5	関東大会東京都予選 インターハイ東京都予選	
	6	夏季合宿健康診断	
	7	夏季合宿（長野県上田市 丸子総合体育館 3泊4日） 多摩地域大会出場 練習試合	
	8	中学生部活動体験入部 夏季大会	
	2 学期	9	部活動保護者会（指導方針等を説明） 練習試合
		10	中学生部活動体験入部 新人リーグ戦
		11	新人選手権大会
12		冬季休業中 練習及び練習試合 基礎強化練習	
3 学期		1	練習及び練習試合
	2	公立校大会 練習試合	
	3	春季休業中 練習及び練習試合	

(様式)

令和6年度 男子バスケットボール部の指導方針等について

令和6年10月10日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	陶山 理			
副顧問	瀧澤 葵			
副顧問	中島 聡美			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
新人戦本大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
定時制全国大会の補助スタッフとして生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握するとともに、熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 春季大会兼関東大会予選
	5	東京都選手権兼全国大会予選
	6	保護者会
	7	夏季休業中 練習及び練習試合 夏季合宿
	8	定時制全国大会補助スタッフ 5校リーグ夏季大会
2 学期	9	
	10	新人戦支部大会
	11	
	12	冬季休業中 練習及び練習試合
3 学期	1	新人戦本大会兼関東新人大会予選
	2	
	3	5校リーグ春季大会 春季休業中 練習及び練習試合

(様式)

令和 6 年度 女子バスケットボール部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	北住 歩			
副顧問	井町 翔文			
副顧問	栗本 学			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
主体性を持ち、目標に向けて努力ができる生徒の育成を目指す。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
都大会で3回戦進出を目指す
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
長期休業中に中学生を対象とした体験活動日を設定する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に4日間とし、練習時間は、平日2時間、休日3時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため他校と練習試合や合同練習を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
なし
- (4) 事故防止・安全配慮
用具を定期的に点検する。気候に留意して適宜、休憩をしながら活動する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東大会予選 新入生歓迎会部活動紹介
	5	インターハイ予選
	6	
	7	
	8	夏季大会・夏季5校リーグ戦
2 学期	9	
	10	
	11	新人大会
	12	
3 学期	1	
	2	
	3	春季5校リーグ戦

(様式)

令和 6 年度 陸上部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	佐藤 勇			
副顧問	小川 里美			
副顧問	高橋 亮			

2 年間目標

- (1) 集団活動をとおして、挨拶などの社会的なマナーを身につける。
- (2) 競技を通して、明確な目標を持ち、努力を重ねる大切さを知る。
- (3) 自ら学び、考え、行動し、問題解決する能力を身につける。

3 指導方針

(1) 部活動の質と量

練習は、原則週 3 日間とし、必要に応じて 3 時間程度の休日練習も組む。

(2) 基本的な生活習慣や規範意識の健全育成

挨拶、正しい言葉遣いに気を付け、陸上競技部での活動を通して、仲間と協力しながら物事に楽しんで取り組む気持ちを身につけられるようにする。

(3) 生徒相互の人間関係

学校での日常の生活態度も良いものとなるように意識し、周囲に信頼される人間になる必要性を考えさせる。一人一人の感性や表現を認め合うことで互いを尊重する姿勢を養う。日頃の準備や清掃を通して協調性や責任感を涵養する。

(4) 学習と部活動

学習と部活動の両立を図る。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

体罰・暴力的指導のない指導を行う。顧問は教員としての資質や能力を高めるとともに、生徒とのコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努める。

(2) 生徒間の暴力禁止

生徒間の暴力やいじめによる問題行動が発生しないよう日頃から指導を徹底する。また、普段から部員同士の人間関係を把握することで問題行動の予防に努める

(3) 事故防止・安全配慮

熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。特に炎天下の練習に際し、クールダウンの時間を設ける等、熱中症の予防に細心の注意を払う。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 部活動仮入部 新入生の種目を各自選定 トレーニング・練習
	5	都高校総体支部予選 トレーニング・練習
	6	支部学年別大会 保護者会 トレーニング・練習
	7	夏期休業期間中 競技会に向けスキルアップ
	8	支部夏季競技会 トレーニング・練習
2 学期	9	支部新人大会 トレーニング・練習
	10	トレーニング・練習
	11	支部秋季大会 トレーニング・練習
	12	トレーニング・練習
3 学期	1	トレーニング・練習
	2	トレーニング・練習
	3	三年生を送る会 トレーニング・練習 生徒会新入生歓迎会に向け準備

(様式)

令和 6 年度 サッカー部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	池田泉	古谷一輝	3級審判資格取得	月 10 回
副顧問	徳永裕亜	江戸川朝陽	本校サッカー部 コーチ 1 年	月 3 回
副顧問	黒田亮平			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
学校活動を通して自分を「鍛え」、自己の未来を逞しく切り開き、創造的かつ主体的な生き方ができる人物を育成する。という本校の教育目標に従い高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会の具体的到達目標
東京都第 7 地区ユースリーグ戦においてより上位リーグ昇格、夏の選手権大会で予選リーグを勝ち上がり都大会に出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、近隣中学校サッカー部と合同練習を行う。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に 4 日間とし、練習時間は、平日 2 時間、休日 4 時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に 3 回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員の役割について両方で話し合い共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介
	5	全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会東京都支部予選
	6	東京都第7地区ユースリーグ戦（4月～11月）
	7	4級審判資格取得講習会（希望者）
	8	
2 学期	9	全国高校サッカー選手権東京大会東京都予選
	10	
	11	地区新人選手権大会
	12	
3 学期	1	
	2	
	3	

(様式)

令和 6 年度 バドミントン部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	矢野 太郎	菅沼 法英	バドミントン部コーチ	月 1
副顧問	荒川 葵			
副顧問	黒田 英嗣			

2 年間目標

- (1) 部活動を通して望ましい身体の発達をはかり、競技力の向上を図る。
- (2) チームでの活動を通じて、望ましい人間関係の形成や社会性を育成する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に 3 日間とし、練習時間は、平日 2 時間、休日 4 時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に 1 ～ 2 回程度、競技力を高めるため近隣都立高校チームを中心として練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、学校の生徒を引っ張っていく存在となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開する。また、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握するとともに、熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介
	5	インターハイ東京予選（個人）
	6	インターハイ東京予選（団体）
	7	夏季合宿健康診断
	8	夏季合宿（長野県千曲市 体育館 3泊4日） 練習試合 部内戦
2 学期	9	新人大会東京都予選（個人）
	10	練習試合
	11	新人大会東京都予選（団体）
	12	フジ杯出場 部内戦
3 学期	1	冬季ブロック大会（団体）
	2	東京都国公立大会（団体）
	3	冬季ブロック大会（個人） 部内戦

(様式)

令和 6 年度 水泳部の指導方針等について

令和6年10月10日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	山口 尚己			
副顧問	関 友哉			
副顧問	高木 智子			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
目的意識を持って自ら実践する。自らの目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会の具体的到達目標
自己ベスト、都高校大会の出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域の学校や他校との合同練習などを通じて幅広い同世代との交流を図る。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に4日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1回は非公式大会も含め、競技会に出場し、モチベーションを高く持つ。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、準備片付け清掃を積極的に行う等、施設を使用することや、関わる人に対する敬意や感謝の気持ちを持つ。
- (4) 生徒相互の人間関係
共に励ましあい、教えあい、応援しあう中で集団への帰属意識とチームワークを確立していく。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

- (3) 外部指導員の活用
卒業生との連携を図り、外部指導者として卒業しても部とつながりを持つ流れを作っていく
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握するとともに、熱中症や過度の運動による事故防止に留意して活動計画を立てる。飛び込みスタートの練習は技能の段階に応じた練習を行い、事故を防止する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介
	5	プール開き 水中トレーニング開始 東京都高校春季水泳競技大会
	6	東京都高校選手権水泳競技大会
	7	関東大会
	8	中学校部活動体験入部 西東京国公立水泳競技大会 インターハイ 三多摩水泳競技大会 調布市民大会 合同練習
2 学期	9	東京都新人水泳競技大会 東京都高校長水路記録会
	10	プール納め 陸上トレーニング期間開始 外部水泳施設使用（週1回程度）
	11	
	12	テクノスカレッジ記録会 冬季休業中 合同練習
3 学期	1	
	2	東京都高校短水路記録会
	3	春季休業中 合同練習

(様式)

令和 6 年度 硬式野球部の指導方針等について

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	守永 純一			
副顧問	波切 旬二			
副顧問	益子 力			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
日々の練習を通して望ましい身体の発達をはかり、競技力の向上を図る。また、団体競技での活動を通じて、望ましい人間関係の形成や社会性を育成通して心技体を養う。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
本大会（都大会）出場を目指して日々の練習及び練習試合に全力で臨む。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に 3 日間とし、練習時間は、平日 2 時間、休日 4 時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
生徒が中心となって考えた練習計画・活動予定をもとに、主体的な活動を行う。月に 4～5 回程度、競技力を高めるため近隣都校との練習試合を通して実践力を養う。また、強豪校との合同練習を通して、技術・意識の向上を図る。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、学校の生徒を引っ張っていく存在となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開する。また、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。防球ネット・ヘルメットなどを適切に使用して事故防止に努める。天候・気温に応じて負荷のかかる練習・トレーニングと負荷の少ない基礎練習などを行い熱中症に留意する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	春季東京都大会 本大会 生徒会部活動紹介
	5	練習及び練習試合
	6	部活動保護者会（指導方針等を説明） 抽選会
	7	全国高等学校野球選手権大会 東東京大会
2 学期	8	抽選会
	9	秋季東京都大会 一次予選
	10	秋季東京都大会 本大会
	11	練習及び練習試合
3 学期	12	冬期強化練習
	1	冬期強化練習
	2	冬期強化練習
	3	春季東京都大会 一次予選

(様式)

令和 6 年度 ダンス部の指導方針等について

令和6年10月10日

1 指導体制

顧問教諭氏名	
主顧問	大戸 幸子
副顧問	島谷 俊行
副顧問	前田 直子
副顧問	吉弘 雄飛
副顧問	阿部 結
副顧問	荒川 葵

外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
岡本 叶望		月1～2
齋木 巽海		月1～2

2 年間目標

スプリング公演・文化祭公演・クリスマス公演を成功させる。

3 指導方針

生徒主体を第一に考え指導を行う。
ダンス部ルールをしっかりと守らせる。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、顧問、外部指導員で共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員で話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身状態を適切に把握し、事故防止に留意して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	↓ スプリング公演に向けて練習
	5	↓ スプリング公演 1年生はアイソレーション練習
	6	↓
	7	↓ 文化祭公演に向けて練習
	8	↓
2 学期	9	↓ 文化祭公演
	10	↓
	11	↓ クリスマス公演に向けて練習
	12	↓ クリスマス公演
3 学期	1	↓
	2	↓ スプリング公演に向けて練習
	3	↓